

2 豆類（未成熟）

えだまめ

農薬取締法上、「えだまめ」は「だいず」とは別の作物である。（だいずの項目参照）
 「えだまめ」には、「えだまめ」か「豆類（未成熟）」または「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。

———— 発病・加害時期
 ===== 発病・加害最盛期

作型・病害虫名	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ハウス早熟			●	▲	▲	▲	▲	▲					
トンネル早熟			●	▲	▲	▲	▲	▲					
露地（早熟）			●	●	▲	▲	▲	▲					
露地（普通）				●	●	●	●	▲					
ハスモンヨトウ													
シロイチモジマダメイガ													
カメムシ類													
マメシクイガ													
アブラムシ類													

ウイルス病

留意事項

- 1 種子、アブラムシ類により伝染する。
- 2 シルバーポリフィルムでマルチングし、アブラムシ類の飛来を回避する。

防除方法

- 1 健全種子を用いる。
- 2 子葉展開時から有翅アブラムシ類の防除に努める。
 （アブラムシ類の項参照）
- 3 生育初期に寒冷しゃのトンネル栽培を行う。
- 4 除草を徹底する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ハスモンヨトウ

留意事項

- 1 老齢幼虫に対する効果は劣るので、若齢幼虫期に防除する。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トレボン乳剤](#) 3 A 【1,000～2,000倍 14日／2回】
 - ・ [アクセルフロアブル](#) 2 2 B 【1,000～2,000倍 前日／3回】
 - ・ [アフーム乳剤](#) 6 【1,000～2,000倍 3日／2回】
 - ・ [ゼンターリ顆粒水和剤](#) 1 1 A
 【野菜類（除はくさい）1,000倍 発生初期 前日／－】
 - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) 2 8 【2,000倍 前日／3回】

シロイチモジマダラメイガ

留意事項

- 1 食入した幼虫に対しては、効果がないので、食入防止に重点を置く。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トレボン乳剤](#) 3 A 【1,000倍 14日／2回】
 - ・ [スミチオン乳剤](#) 1 B 【1,000倍 21日／4回】

カメムシ類

留意事項

- 1 スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤は同一成分ジノテフランを含み、総使用回数は3回以内（但し、は種時の土壌混和は1回以内、散布、空中散布、無人航空機散布は合計2回以内）。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A 【2,000倍 7日／2回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A 【4,000倍 7日／3回】
 - ・ [トレボン乳剤](#) 3 A 【1,000倍 14日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [アグロスリン乳剤](#) 劇 3 A 【2,000倍 7日／3回】
- ・ [スミチオン乳剤](#) 1 B 【1,000倍 21日／4回】

マメシクイガ

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トレボン乳剤](#) 3 A 【1,000倍 14日／2回】
 - ・ [アグロスリン乳剤](#) 劇 3 A 【2,000倍 7日／3回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【3,000倍 前日／3回】
 - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) 2 8 【2,000倍 前日／3回】
 - ・ [ベネビアOD](#) 2 8 【2,000～4,000倍 前日／3回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A 【4,000倍 7日／3回】

アブラムシ類

留意事項

- 1 アドマイヤー1粒剤の成分イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数3回以内
(定植時及びは種時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)

防除方法

- 1 は種前に、種子に塗沫処理する。
 - ・ [クルーザーMAXX](#) 4 A 【乾燥種子1kgあたり原液8ml 塗沫処理 は種前／1回】
- 2 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ダントツ粒剤](#) 4 A 【6kg／10a まき溝処理土壌混和 は種時／1回】
 - ・ [アドマイヤー1粒剤](#) 4 A
【3kg／10a まき溝土壌混和 は種時／1回】または
【2g／植穴（但し、6kg/10aまで） 植穴土壌混和 定植時／1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スミチオン乳剤](#) 1 B 【1,000～2,000倍 21日／4回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A 【4,000倍 7日／3回】
 - ・ [アクタラ顆粒水溶剤](#) 4 A 【3,000倍 7日／2回】
 - ・ [ウララDF](#) 2 9 【2,000～4,000倍 7日／2回】
 - ・ [ベネビアOD](#) 2 8 【2,000倍 前日／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。